

858-16

858

16

茶ノ間四疊半之謂

香館



一 茶ノ間四疊半盤觴ハ足利八代將軍源

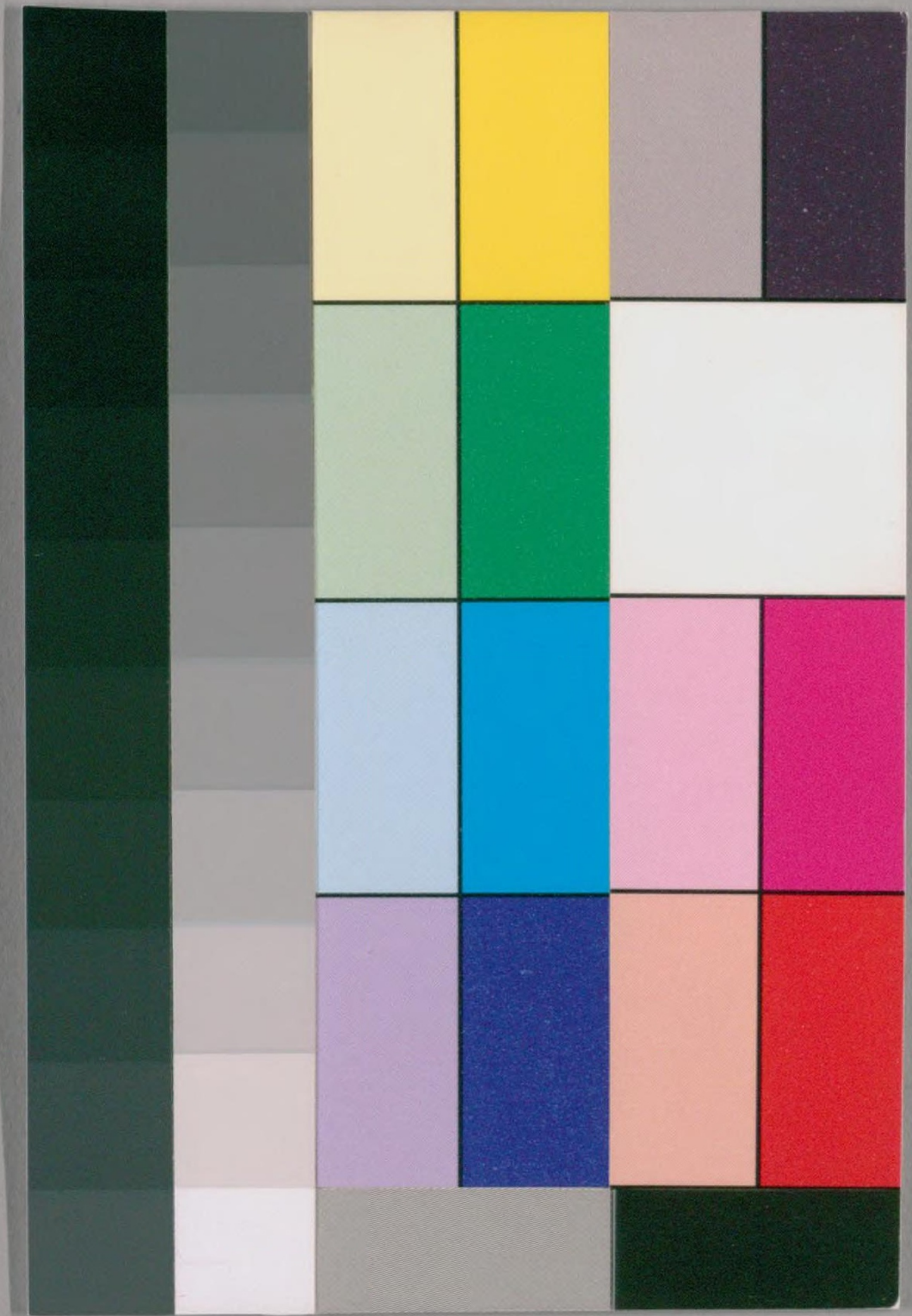
義政公京在鹿ヶ谷ノ北慈照寺ト云夢窓國師

閑基ノ寺地有リ文明三世格ヲ讓閑居ニ給別

莊ノ故ニ東山殿ト云二重之高閣ヲ立上ヲ

心空殿ト云下ヲ潮音閣ト云茶事ノ物教寄

和漢ノ寄物翫給リ是ヨリ後世茶ノ間者



四疊半トス○平時延徳正山月七日薨ニ給フテ  
慈照院殿喜山公ト法名ニ遺命ニヨツテ所  
寺トシ給フ一名銀閣寺ト稱禪宗也

△同明相阿弥香花茶事達其各方向ニ

一燈ハ元來九月朔旦ヨリ明年△二月晦日迄

ト云當世十月朔日爐開トスハ唐ニテ十月

朔旦炉開炉中ニテ肉ヲアフリ飯食ス是ヲ

煖炉之會ト云云此例ヨリ今日存之茶人

十月朔旦ヨリ炉開ト云云賓客ト茶ヲ喫ス

トアリ

一金閣寺是モ足利三代將軍義滿公ノ別莊ナリ

三重高岡ナリモテ法水院ト云々丹二潮音洞

云第ニヨ寃竟頂ト云上下四方惣金鉤ヲ以

猪天井ヲ共ニ梅ヲ板ト云

右柳木舞列多氣郡古江村より出ると云々  
株今ニハ九由

菓物

一夏々 沈音 白檀 青木 秋々

一冬々 神の香

苗時柿の香 夏々用  
京都下長者所 宝所 西入  
香白果 花十葉 湯さ 上 煎衣

すまじり用時

○風解き 草口 〇 酢き フク入

カニハ 湯煮 見ん 故

見を マウク 石を も 中 秋 故  
△冬カ 目ノウミ 内 張 條 有

濃茶之略

菓茶 冬 年 一 年

一初七卯 代限

一飛梅

代 下

一桃乃白 日

一山 吹

冬 年

一後首 代々

一子 芝

冬 年

一脱の白 代々

一香の 花

冬 年

一わの首 代々

一たかの 尻

冬 年

一抱むし 代々

一友 白

冬 年

茶湯の時 昔は 辻 宿 日 茶 下 湯  
身 之 右 旅 茶 室 今 旅 下

はる 之 湯 茶 湯 乃 冬 年 行 料 理  
菓 子 煎 茶 行 風 産 物 冬 年

薄茶し格

一 極清味

三斗身  
代字目

一 大上別儀

代早茶

一 別儀むし

代早茶

一 好極極

代早茶 一 抱き方の代早茶

一 次尾茶

代早茶

右白戸浅茶御門跡所為茶百是月係字  
七斗身 依影表向う有る代

858  
16

